

# 宮ヶ瀬湖 視察報告書

(神奈川県愛甲郡愛川町、同郡清川村、相模原市)

## 1 現場付近の状況

- ・飛び込み場所は、湖の北側（相模原市域）にある『虹の大橋』である。
- ・橋には背の高いフェンスが設置されているが、登ることは可能で、一部フェンス上部を乗り越えたかのように変形していた。他、もう一つの「やまびこ大橋」では、フェンスの一部取り換えられており、車ごと突っ込んだ事案がある。
- ・湖は山岳に囲まれており、平日なためか、湖周辺に観光者等の人影は全くない。
- ・建物がある地域は密集しており、終着地点となるバス停もその一帯に存在する。宮ヶ瀬湖に到着する最終バスは、20時台。

## 2 自殺防止対策

- ・虹の大橋には、人の背丈以上のフェンスが設置されていた。このフェンスの網目は、一般的なものよりも小さく登りにくい。
- ・虹の大橋の入り口両側に、監視カメラが設置されている。このカメラは、ダム管理事務所で監視。

## 3 自治体の担当者談

- ・飛び込みは減少していると思われるが、夜間に車で訪れ湖畔の小さな駐車場で練炭自殺を図る自殺者を朝方になって発見し通報するケースがある。
- ・山岳に入り、自殺を試みる者もいる。数ヶ月前、20時の最終バスで来た女性2人が自殺場所を求めて山の中を歩き回るうちにお腹が空いて下山。歩いているところを発見し保護したケースがある。
- ・虹の大橋では、飛び込まないように柵が設置されているが、やまびこ大橋は、車ごと突っ込むケースがある。
- ・湖・山の中、見つけられていない人もいるのではないかと考えている。
- ・宮ヶ瀬湖近くの清川村に存在するキャンプ場内にある崖がから飛び降りるケースもある。
- ・宮ヶ瀬湖では、横浜の方を保護することが多い。
- ・隣接する自治体の多くが、宮ヶ瀬湖を自殺の多い場所として意識していない。
- ・宮ヶ瀬や丹沢など奥地の地域を人口が少ないなどの理由で『ハイリスク地』と呼び対策がすぐにはできないと考えている。
- ・宮ヶ瀬に向かうバスをはじめ、県内のバス26路線にて自殺防止対策に関する車内放送を12月より予定。（予算40万程）

## 4 考察

- ・宮ヶ瀬湖が自殺発生場所となっているという認識は、周辺施設、自治体共にとても希薄であった。自殺者の多くが地元民ではないことが、自殺発生現場としての認識が希薄である一因と思われる。しかし、周辺山岳への入山による自殺や車ごとの飛び込み、車で練炭自殺は後を絶っていない。
- ・虹の大橋においては、フェンスに有刺鉄線を取り付けるなど、対策としてさらに追加できる対策があると思われることがあると感じた。
- ・「年間10人程度であるから、他に比べて自殺多発場所ではない」という自治体や周辺地域民の意識を変える必要があると思う。